

## ▼ スタッフのつづき

現在従事する当法人のスタッフに、仕事の内容ややりがい、日々の暮らしなどを尋ねてみました！  
全く同じ業務をしているスタッフがひとりもおらず、それぞれ面白い話が聞けました。

- Q & A
- ①勤続年数、現在担当している業務／仕事の内容
  - ②この仕事をやって良かったと思う瞬間（やりがい）
  - ③休日の過ごし方・暮らして好きなおところ



ガイドとして作品の説明中



スタッフ A



ガイドサポーター（こへび隊）と  
研修会を毎月開催しています

### ①入社3年目、ツアー

大地の芸術祭では独自のオフィシャルツアーを催行しています。ツアーで来た方に、越後妻有を楽しんでもらえるような行程の検討から始め、バスの手配、ガイド業務、サポーター「こへび隊」へのガイド依頼など、ツアー全般に関わる業務を担っています。旅行会社や個人のグループから依頼を受け、オリジナルツアーを造成することも。ツアーを通して、越後妻有の良いところ・素敵なおところを知ってもらえるよう心がけています。

②ツアーが無事に終わり、参加者が「ありがとう」「また来ます」と言って帰っていくのを見るとほっとします。ツアーに参加される方は、大地の芸術祭が初めてという方が多いです。移住して3年目で土地にも作品にも慣れましたが、参加者の新鮮な反応や感想を聞くたびに、やっぱりいい作品・土地だなあと感じています。

③基本的には家で動画を見るか、小説や漫画を読んで過ごしています。月一回ほど展覧会やイベントのために遠出をしていて、その先で日本酒やお土産を買うのが好きです。

### ①入社3年目、施設運営／作品制作

担当する越後妻有「上郷クローブ座」は廃校を改修した施設で、常設作品あり、宿泊施設あり、レストランあり、劇場ありのパフォーマンスイベントも開催されるという芸術祭の縮図のような場所です。多岐にわたる業務の責任をもつことは容易ではありませんが、その分地域との関わりも強く、地域の方たちにご飯の心配などされながら一緒に頑張っています。隣接する「香港ハウス」は毎年香港作家の展示をするだけでなく、学生のインターン生がクローブ座で生活しているので、会期中にはにぎやかな場所です。さらに津南エリアの作品制作を担当しており、地域や行政と作家をつなぐ仕事をしています。

②東京の美大を卒業し、アートに関わる仕事をしたいという一心で、縁もゆかりもない越後妻有に移住してきました。高校まではスポーツをやっていたこともあり、自分は身体を動かすのも好きだし、なんとなくアートもやっただし、ここに向いている！と思い、ワクワクしながら来ました。仕事を始めてみると大変なことは多いけれど、自分が企画したものを、自分で現場を回して、喜んでくれたお客さんの顔もしっかりと目に焼き付けられるこの仕事は、達成感をリアルに感じることができるやりがいのある仕事だと思っています。

③同期とルームシェアをして暮らしています。仕事で地域に密着している分、休みの日は家で1人で料理をしたり、好きなアイドルの動画や映画を見て引きこもっています。学生時は古着が好きでしたが、今は1シーズンに1度、新潟市のお気に入りのセレクトショップでとびきりの1枚を買うのが楽しみです。



スタッフ B



津南町内の小学生15名が参加する  
演劇作品を公演を終えて



海外作家の作品インストール中



一緒に働く同僚・FC越後妻有の  
選手たちを応援しに試合に行きました



越後妻有「上郷クローブ座」にて、  
演劇型レストランに参加してくれているお母さんたちと



初めての喫茶店員@サロン MonET



## スタッフE



FC 越後妻有の選手全員参加のイベント「おにぎりのための運動会！」の様子



ホームゲームは大好きで溢れます！！



休日のスノボ

①入社3年目、越後妻有里山現代美術館 MonET / FC 越後妻有  
他のスタッフと異なる点は、業務時間にサッカーをしているところです！  
2015年に「FC 越後妻有」という実業団チームがNPOにでき、選手は半日はサッカー、半日は棚田の保全活動や大地の芸術祭運営をしています。社会人の女子サッカーチームだとフルタイムで働いたあと、夜に練習をするチームが多い中、トップリーグを目指して業務時間内にサッカーができるのは体力面でも精神面でもとても大きいことです。毎年4月から11月にかけて北信越リーグ、皇后杯、日報杯で戦い、シーズンを通して約20試合をしています。

サッカー以外の業務では、越後妻有里山現代美術館 MonET の受付やミュージアムショップ、作品点検など運営に関わる仕事をしています。また、期間限定で美術館内の喫茶店がオープンするので、サロン MonET の店員として、お客様にケーキやドリンクをご提供することもあります。

②大学で知り合った選手がFC 越後妻有に入っていて、私はその選手と一緒にサッカーがしたいという想いだけで、新潟に来ました。これまでサッカーしかやってこなかったのが、「大地の芸術祭」がどのようなものなのか分からず入社しました。美術館に来てくださるお客様は、大地の芸術祭を知らない方も多く、美術に詳しくない自分なりの視点で作品についてお伝えしたり、芸術祭を知ってもらえることにやりがいを感じますし、今ではそれがよかったのだと思います。

また、私の周りにはスポーツを通して関わった人がたくさんいて、アートに興味がなかった友達と一緒に作品を見て、アートを身近に感じてもらったり、越後妻有の魅力を広められるところにもやりがいを感じています。サッカーの面では、NPOの同期や上司、地元のおじいちゃんやおばあちゃんが軽トラで試合会場に駆けつけてくれたり、練習中も様子を見に来てくれることが原動力となり、結果で恩返しできた時は、このチームで良かったと思います！

③FCの選手と一緒に住んでいるので、お休みの日も一緒に過ごしています。最近をよくスノボに行っています。また、3年目にしようやく近くのお店を探そうになり、standというおしゃれなカフェを見つけました！基本的にアウトドア派なのでお休みの日でも家にはいることはないです！笑

①入社10年目、施設管理運営/ショップ企画運営/作品販売  
十日町市出身で大学進学のため東京に出たのですが、2000年の芸術祭ではこへび隊で地元に戻って活動をしていました。その後は東京に勤めてましたが芸術祭での活動が楽しく、30半ばでUターンし今こちらの会社にお世話になっています。いろんな部門を渡り歩きましたが、現在は特徴が異なる複数の施設に携わり、その施設にあった作品の見せ方や展示の企画、イベント、運営、維持管理をしています。時には、やぎの世話をしたり、地元の子供達と一緒に生きものを探したりもしています。また、ショップではアーティストや地域メーカーと一緒にグッズ開発や店舗作り、作品販売や営業など行っています。作品はもちろんそれ以外でも、この芸術祭で来訪者の記憶に残る要素を作り上げられたらと思っています。

②色々な価値観の人と一緒に、ひとつの目標に向かって進み、それが達成したときはなんともいえない嬉しさです。また、基本、飽き性で同じリズムの仕事が苦手なので、毎日違うことをするここでの仕事は自分にとっては魅力的です。

③仕事で体をよく使うので、お休みは基本頑張らないようにしています。ここは温泉施設がたくさんあるので、ドライブがてら温泉に行つてのんびり過ごすのが好きですね。また、地元のお母さんたちの作る郷土料理がとっても美味しい！いつか畑がやれたらいいなと思っています。



## スタッフF



制作作業



グッズ開発



美術館で飼っているヤギ親子



展示会の企画



屋外作品の洗浄作業



空き家作品の除雪作業



休日の1コマ：子どもたちと芸術祭めぐり@清津倉庫美術館



廃校作品の床下の補強作業



地域の皆さんとの作品設置



屋外作品の枝打ち作業



## スタッフC

①入社8年目、既存作品のメンテナンス／作品制作  
メンテナンス業務では、広大なエリアに数多く点在する作品の維持管理を行っています。特に野外作品、空き家作品を中心に、年間を通して作品の価値が保たれるよう、修繕、草刈、清掃、除雪などの作業や点検を行っています。作品を扱う上では近隣の業者さんでは扱えない特殊な事案も多く、さまざまな知識を学びながら、常に手探りですがすべての案件に対応出来るように考えながら業務当たっています。

制作業務では、作品をつくるだけでなく、作家、地域の皆さん、行政の方とのコミュニケーションや、プロジェクトの進行管理なども含めて行い、関わった皆さんが感動を共有出来るように、より良い作品を目指して業務に当たっています。

②「大地の芸術祭」の取り組みは多岐にわたりますが、芸術祭という名前が付いている以上、作品が一番感動を与えるものでなくてはならないと考えています。数多くある作品の一つひとつに作家のコンセプトが有り、関わった地域の皆さんの思いがあり、鑑賞してくれるお客さんの視線があります。それらを考えながら、作品がより良く見えるように最善策を考えて作業します。作品周囲の草刈一つとっても、ただ刈れば良いというわけではなく、草丈の長さを変えたり、自然に見えるようにあえて草を残した雰囲気にするなど方法を考えながら作業しています。どんなに山の奥にある作品でも同じ思いで作品に向き合っています。普段は目立たない役割ですが、携わっている作品を見て感動してもらえることに、やりがいを感じています。

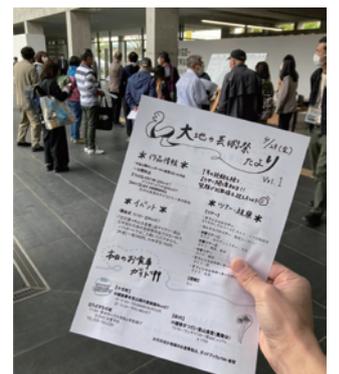
③休日は食べるのが大好きな娘達と美味しいものを求めて遊びに出かけます。子どもたちが保育園や日常生活で、虫やカエルに触れたり、雪の中を駆けずりまわったりしながら、のびのびと過ごせる環境に魅力を感じています。



## スタッフD



企画展広報のために  
作家とキュレーターにインタビュー



芸術祭会期中にスタッフや  
サポーターに向けたおたよりを  
毎日作ります

①入社3年目、芸術祭事務局／広報

芸術祭事務局は作家や行政など各所との調整業務です。常に先のこと見据えて作家と地域のマッチングや行政との交渉・協議を行います。広報の主な業務はチラシやチケットなどの印刷物の作成、HP・SNSでの情報発信、取材対応などです。地域外の方と関わる仕事も多く、「大地の芸術祭」を知らない方にも私たちの活動やその魅力が伝わるように意識して情報を発信しています。

②生まれも育ちも東京ですが、大学を卒業して新卒で今の環境に飛び込みました。学生時代にこへび隊活動で初めて越後妻有に来た時に地域の方に良くしてもらった経験から、この地域で暮らしながら地域に貢献できる何かをしたいという気持ちがあったため就職を希望しました。事務局業務は地域がさまざまな意味で豊かになるためにやるべきことを真剣に考えられて、緊張感はありますが純粋に面白いです。広報では自分の感じる「大地の芸術祭」や地域の魅力を、多くの人に伝えられることや、広報以外の業務を経験することで、その経験が広報に生きていくことも仕事を楽しいと感じる瞬間です。

③休日は地元の方を誘い、越後妻有を周遊しています(笑)。それ以外の日は、一人もしくは同期やFCの選手とドライブして県外に行きます。クラフトビールが好きで、1年前に十日町のホップ農家さんのところでマイホップを育て始めました。生産者と繋がりをもつことができ、自分が食するものの生産過程を間近で見られることも地域で暮らす醍醐味です。



地下茎を植えて数か月後、  
ホップの様子を見に行く休日